



梅雨入りはいつかと気になる季節になりました。大学受験を控えたお子さんを持つ父親のみなさん、いかがお過ごしでしょうか。

私が見聞きする範囲でのことですが、最近はお子さんの大学選びに積極的にかかわる親御さんが多いようです。積極的なあまり、願書の入手・記入・提出から合格後の手続きまですべてしてしまい、入学後のガイダンスにまで同行する方々もいます。

こうしたケースはお母さんたちが多いようですが、父親のみなさんはお子さんの進路選択にかかわっていますか？父親には、具体的な大学選



父親のみなさん

受験の多くは、社会の仕組みや成り立ちをまだ十分に理解していないでしょう。将来の進路への考え方も、現実離れしかなない面があります。

そこで父親の出番です。ご自身のことを語ってあげてください。自分がどんな会社にいるか、その会社はどうやって儲けを得ているか、自分はどんな仕事をしているか、組織はどうなっているか、報酬はいくらか、この会社や業界の将来性はどうか。

そんなことを具体的に話すことで、子どもは、企業や働くことへのイメージを持てる

進路助言経験をもとに

染谷忠彦

女子栄養大学常任理事

よつになります。

母親は、子どもの生活ぶりを間近でずっと見ていますので、性格などもよく理解したうえで、現実的なアドバイスができるでしょう。これに対し父親は「自分がいかに生きてきたか」を語ることで、お子さんの進路選



るでしょうが、自分の考えを必ず子どもに伝える努力をしてほしいのです。

子どもにそっぽを向かれたら、独り言のようにしゃべればいいんです。面と向かって言えなければ、横を向いたままでも構いません。とにかく「私はこう思う」と、何らかの方法で伝えましょう。

子どもは親の言ったことを必ず覚えていてくれます。聞いてくれないようでも、あとで必ず思い出します。みなさんも振り返れば思い当たる節があるはず。大きな声の独り言も、りっぱなアドバイスなのです。